

製品安全データシート

製造者情報

会社名 富士技研工業 株式会社
 住所 埼玉県戸田市氷川町 3-13-2
 担当部門 技術部
 担当者 木内 丈司
 TEL 番号 048-434-6401 FAX 番号 048-434-6404
 緊急連絡先 富士技研工業 株式会社
 作成改訂 平成 21年 7月 10日

整理番号 09FJ21

製品名 FJ リムーバー FR20

物質の特定

単一製品・混合物の区別 混合物

化学名	アルキルアルコール アミン	炭酸ガス 吸収剤	複合活性塩
含有量 (%)	28-35	18-23	1-3
化学式	H ₂ NCH ₂ CH ₂ OH	X _n Y _o Z _l V _m	V ₁ Y _{2o} X _m
国連分類	クラス 8	特定出来ず	特定出来ず
cas.no	141-43-5	-----	-----
国連番号	2491	-----	-----

P R T R 法 該当せず
 ナノマテリアル 該当せず
 国連分類 該当せず

GHS ラベル要素

絵表記又はシンボル



危険有害性の分類

分類の名称：	腐食性液体
危険性：	アルカリによる、金属腐食性
有害性：	目や皮膚に付着すると炎症を起こす。喉、鼻等の粘膜を刺激する。
環境影響：	濃縮性がない、若しくは低いと判断される物質である。環境に重大な影響を与える物質とは考えにくい。

応急措置

目に入った場合：	直ちに多量の水（流水）で、15分間以上洗眼し（瞼の隅々まで）速やかに医師の手当を受けること。
皮膚に触れた場合：	汚染された衣服を脱がせ、直ちに多量の水で皮膚を洗い流す。処置後、刺激が続く様であれば医師の手当をうける。洗濯してから再使用のこと。
吸入した場合：	適切な呼吸保護器を使用して、当人を速やかに暴露場所から移動させる。もし呼吸が停止している場合、人工呼吸を行なう。安静にしておく。速やかに医師の手当を受けさせること。
飲み込んだ場合：	意識がある場合、直ちに多量の水を飲ませる。速やかに医師の手当を受けること。

火災時の措置

消火方法：	不燃性にて該当せず。 不燃性で引火、着火性はないが高温となれば、分解が始まりヒュームを発生するので注意を必要とする。 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合には、容器および周辺に散水して冷却し、容器の破壊を防ぐ。
消火剤：	囲の状況に合わせた消火剤を使用のこと。ただし粉末化学消火剤を使用してはならない。

漏出時の措置

地上にこぼれたり漏洩した場合の処置：

- もし危険なしにできるならば、本物質が更に流出しないようにする。
- 直接液に触れないよう保護具を着用し、風上から回収作業を行なうこと。
- 風下の人を退避させ、ロープを張り周囲から人を遠ざけ危険性を警告し、関係者以外は立入禁止とする。
- 土砂等の適切な吸着剤を使用し取り除くか、消石灰、ソーダ灰等で中和し、多量の水で洗い流す。濃厚な廃液が河川等に排出されないよう注意する。
- 液体が排水溝、水路または低地に入るのを防止する。

 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- ・ 火気厳禁。
- ・ 用途以外の目的に使用しないこと。
- ・ 無闇に他の薬品と混合しない。
- ・ 引火性物質、金属、酸性液体、粉末等と接触させない。
- ・ 皮膚に触れないよう、目に入らないようまた蒸気を吸入しないように注意する。
必要に応じ保護具を着用する。
(防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器、保護眼鏡、耐油性保護手袋・長靴・前掛)
- ・ 室内での取扱いの場合は、換気を十分に行ない、必要であれば局所排気装置を設置する。
- ・ 容器は破損、腐食、割れ等のないものを使用し、みだりに転倒させ、衝撃を加える等の乱暴な取扱いはしない。
- ・ 容器から出し入れする時は、こぼれないようにする。また、取扱いの都度容器を密閉する。

保管

- ・ 漏洩の防止
 - ・ 直射日光を避け、高温物を近づけない。
 - ・ 強酸化剤、金属、酸性類、弗素・塩酸などのハロゲン、強酸性物質と一緒に貯蔵しない。
 - ・ 異物混入のないこと。
 - ・ 「関係者以外立入禁止」等の必要な標識を見やすい箇所に掲示する。
 - ・ 冷暗所に密閉して、保管する。
 - ・ その他、毒劇物取締法の関連法規に従って取扱うこと。
-

暴露防止措置

許容濃度： 日本産業衛生学会(1991年度版) 勧告されていない。

ACGIH(1985年度版) TWA 3ppm, 7.5mg/m³

管理濃度： 設定されていない。

設備対策 換気：取扱い場所に換気装置、安全シャワー、手洗い等必要に応じて設置する。

保護具 保護眼鏡： 側板付保護眼鏡またはゴーグル型保護眼鏡

保護手袋： 耐アルカリ性用保護手袋

保護衣： 耐アルカリ性用保護衣、保護長靴、保護前掛け等

物理／化学的性質

外観： 無色透明液体

比重 (20/20℃)： 1.005 - 1.02

蒸気の比重 (空気=1)： 1以上

水への溶解性： 可溶

20℃ PH：13.0～13.5

20倍溶液 11.5～12.0

危険性情報

引火点： なし 発火点： なし
 燃焼範囲： なし 可燃性： なし
 発火性（自然発火性・水との反応性）：なし 酸化性： なし
 自己反応性・爆発性：なし

安定性・反応性：金属酸化物と緩やかに反応する。

その他：アルミニウム、銅及び合金、酸無水物、酸化剤、酸、酸クロライドを避ける。

混合してはならない物質及び回避すべき条件：強酸化剤、金属、強酸類、弗素、と一緒に貯蔵しない。

有害性情報（人についての症例、疫学的情報を含む）（アルキルアルコールアミンとして）

皮膚腐食性：ガーゼに湿らせた原液を、人の皮膚に90分間つけておいた場合、皮膚に著明な発赤と浸潤を生ずるのみである。

刺激性：濃溶液が眼に入ると、かなり刺激を受けることはあるが、適切な治療を受ければ障害となることはない。

感作性：一度付着したところに数回繰り返して付着すれば、過敏な人はアレルギー症状を呈することがある。

急性毒性(50%致死量等を含む)：LD50 2.10 g/Kg (ラット;経口)

LD50 2.54 g/Kg (マウス;皮下)

LD50 6.610g/Kg (モルモット;経口)

亜急性:イヌ, ラット, モルモットは、12～25ppm・90日間の吸入で死ななかった。

慢性毒性 しかし、イヌでは100ppm、ゲッシン類では66～75ppmの吸入で24～30日の間に死んだ例があった。皮膚刺激と昏睡は、5及び12ppmで起こった。

動物への経口投与では、ラットにおける90日間の亜急性毒性実験で、無作用量は1日320mg/Kgであり、肝・腎の重量変化は648mg/Kgで顕微鏡的变化及び死は1280mg/Kgで現れた。本物質0.267ml/を1回/日・40日間経口投与したウサギでは、食欲低下、口内出血、流涎があり、貧血も認められた。35日目頃からは衰弱が目立った。

病理所見としては、胃の出血のほか剥離性肺炎、肝・腎の腫大、腎実質炎が認められた。

がん原性：報告例は見あたらない。

変異原性(微生物, 染色体異常)：報告例は見あたらない。

生殖毒性：報告例は見あたらない。

催奇形性：報告例は見あたらない。

その他(水と反応して有害なガスを発生する等を含む)：強い血管拡張作用をもっている。

環境影響情報

分解性：

蓄積性：報告例は見あたらない。

魚毒性：報告例は見あたらない。

その他：CODMn 0.34g/g (0.1%水溶液) 良好

BOD 1.11g/g以下 (0.1%水溶液)

廃棄上の注意

廃棄する場合は硫酸などの酸性水溶液を加えて中和させた後、大量の水（2000倍以上）で希釈して処理する。

活性汚泥処理方法に準ずる有機アルカリの処理方法。その他関連法規に従って廃棄して下さい。

輸送上の注意

容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にこなう。

車輛等によって運送する場合は、荷送人は運送人に運送注意書を渡すことが望ましい。

取扱いおよび保管上の注意の記載事項を参照のこと。

主な適用法令

航空法 施行規則第194条告示別表第11腐食性物質(Q-等級3)
危規則 第3条告示別表第3腐食性物質(R-上・下／上・下等級3)
労働安全衛生法 施行令第18条別表9(名称等を通知すべき有害物質)
化学物質管理促進法 施行令第1条別表第1(第1種指定化学物質)

引用文献

12695の化学商品 化学工業日報社(1995)

環境有害物の測定と評価 上巻 労働科学研究所(1981)

産業中毒便覧

安全データシート 国産化学株式会社(1996)

国際化学物質安全性カード(ICSC) 日本語版 化学工業日報社(1992)

その他

この情報は弊社が知り得るかぎり正確なものです。しかし使用される環境および条件については弊社がコントロールできないため、この情報の使用によって直接的又は間接的に損失もしくは損害が生じたとしても、弊社はいかなる責任も負いません。また、特許侵害に対する免責を保証するものではありません。